

一クな町村誌の一つに数えられるであろうと思う。

終わりに一言したいのは故宇都宮吉先生についてである。先生は医師であり、浮穴史談会の会長として生前、郷土の史料を丹念に収集され研究されていた。そして、このたびの町誌編集にそれがどれだけ役立ったか知れない。日野町長によって企画された本誌の完成を、先生は地下にあってさぞ喜んでいられるであろうと、当時の会員の一人として懐しく亡き先生の温顔を憶い起こすのである。

昭和四三年一月三日

愛媛県編年史編纂委員
久万町誌編集委員会顧問

伊 藤 義

一

目 次

刊行のことば	久万町長 日野 泰
「久万町誌」に寄せて	愛媛県知事 久松 定武
序	久万町議会議員 河野 修
久万町誌編集について	愛媛県編年史編纂委員 伊藤 義一 久万町誌編集委員会顧問
第一編 自 然	
第一章 町の概観	三
第二章 地形	七
一、久万高原	七
二、山と川	八
第三章 地 質	八
一、中央構造線と石鎚山系	八
1、三波川帯	九
2、石鎚山第三系	九
3、久万地質の要約	九
二、久万町の地下資源	〇
第四章 土 壤	〇
一、田畑の土壌	二
二、	二
第五章 気 候	二四
一、久万町の気候の特色	二四
1、地形と気候	二四
二、久万町の天気と気候	二四
1、気 温	二六
2、日照時間	二六
3、降水 量	二七
4、風向と風力	二九
5、天気と気候	二九
三、災 害 史	二一
1、久万町の災害について	二一
2、災 害 史	二二
第六章 生 物	二四
一、植 物	二四
1、分 布	二四
2、三 坂	二五
3、皿 谷	二五

4、大除城址	二六
5、名勝菅生山	二六
6、笛ヶ滝公園・三島神社ほか	二七
7、イヨス山	二八
8、桂か森	二八
9、井内峠・白猪峠	二八
10、古岩屋・岩屋山	二九
11、棉化植物	三〇
二、動物	三〇
1、分布	三〇
2、昆虫類	三〇
3、鳥類	三二
4、その他	三三

第二編 歴史

第一章 岩蔭遺跡と出土品

一、上黒岩岩蔭遺跡	三七
1、出土品	三七
2、縄文時代の上黒岩の生活	三八
二、久万町内の出土品	三九
1、町内の縄文土器	四一
2、久万文化	四二

第二章 菅生山大宝寺と伊予すだれ

一、菅生山大宝寺	四三
二、古代の道	四五

三、伊予すだれ	四六
---------	----

第三章 大除城と大野氏

一、大除城主大野氏と久万山	四七
1、鎌倉時代の小田・久万郷	四七
2、南北朝時代の大野氏	四八
3、大野氏の消長	四九
4、応仁の乱と大野氏	五〇
5、大野氏と大除城	五〇
6、紀伊守利直	五三
7、山城守直昌	五四
8、笹力峠合戦	五六
9、大除城落城と大野氏の末路	五六
10、大野氏の幕下	五八
11、直昌公位牌発見の経緯	五九

二、郷村の起り

第四章 藩政時代の久万

一、概要	六四
1、戦国の久万山	六四
2、村役人	六五
3、年貢	六八
4、御廻領	七二
二、四国遍路と久万山道	七六
三、久万山農民のくらし	八〇
附 木地師の生活	八二
四、享保の飢饉と久万山	八四

第五章 現代における久万町のあゆみ

一、久万山騒動	九八
1、当時の世相	九八
2、久万山騒動概況	九九
3、明治維新	一〇三
二、久万凶荒予備組合	一〇四
1、備荒貯米の必要	一〇四
2、久万山民積の由来	一〇四
3、組合の変遷	一〇七
4、組合管理	一〇九
5、組合の事業	一一〇
6、大正三年久松伯の登山	一一〇
三、土佐街道(久万山道)	一一三
1、以前の土佐街道	一一三
2、四国新道建設の機来	一一三
3、土佐街道建設に着手	一一四
4、新道開きく工事の進行	一一七
5、関新平知事	一二〇
6、その他の功献者	一二〇
四、日清・日露の役と郷土	一二〇

第三編 民族文化

第一章 村落社会の構造

一、村のつきあい	一二三
二、氏神	一二七
三、講	一二七
四、若連中と子ども組	一二八
五、同族関係	一二九
六、身分的呼称	一三〇
二、戦争景気と米騒動	一二四
7、産業の発達と関東大震災	一二四
六、第二次世界大戦と郷土	一二五
1、満蒙開拓義勇軍	一二五
2、統後の生活	一二六
3、終戦下の郷土	一二八
4、戦後のあゆみ	一二九

第二章 衣食住のうつり変わり

一、日清戦争	一二〇
2、日露戦争	一二一
三、大正期	一二三
1、明治天皇崩御	一二三
2、桜島の大爆発	一二三
3、第一次世界大戦	一二三
4、政党政治	一二三
5、シベリヤ出兵	一二四

一、衣 生 活	一四一
1、衣 服	一四一
2、はきもの	一四二
二、食 生 活	一四三
1、たべもの	一四三
2、炊事道具	一四五
三、住 生 活	一四六

第三章 労働とならわし

一、農家経営とならわし	一四八
1、年貢(上納米)と隠し田	一四八
2、年貢と祈願	一四九
3、荒子・雑仕	一四九
4、子守りと労働	一五〇
二、農耕とならわし	一五〇
1、水田とならわし	一五〇
2、畑作とならわし	一五三
3、山林とならわし	一五五
4、その他のならわし	一五七

第四章 年中行事

一 月	一五八
二 月	一六〇
三 月	一六〇
四 月	一六一
五 月	一六一
六 月	一六二

七 月	一六二
八 月	一六三
九 月	一六四
一〇 月	一六四
一 一 月	一六四
一 二 月	一六五

第五章 伝説と昔ばなし

一、伝 説	一六六
二、昔ばなし	一七〇

第六章 民謡と俗信

一、勞 働 歌	一七九
二、祝 歌 ほか	一八二
三、わらべ 歌	一八五
四、迷信・俗信・まじない	一八六

第七章 方言

一、伊予方言のあらまし	一八九
二、久万地方で主に使われている方言	一九〇

第八章 風俗 儀礼

一、産 育	一九三
二、一 人 前	一九七
三、婚 姻	一九八
四、死 喪	一九九

第九章 芸能伝承

	二〇三
--	-----

9、川瀬歌舞伎

二三八

第四編 産業 経済

第一章 人口と集落

一、維新前の人口	二四三
二、明治以後の人口	二四四
三、第二次世界大戦後の人口動態	二四五
四、産業別人口	二四八
五、最近の人口動向	二四九

第二章 農 業

一、概 要	二五一
-------	-----

1、明治維新以後	二五一
2、第二次世界大戦当時	二五五
3、終戦後の農政	二五六
4、新しい農政	二六一
二、農用地の開発	二六三

1、徳川時代——明治初期	二六三
2、明治後期——昭和初期	二六五
3、戦 中——戦 後	二六七
4、農道開設事業	二六八
5、耕地整理事業	二七〇
三、久万地方農産物の推移	二七三

1、史実にみられる農業生産	二七三
2、穀物中心に移る農業	二七五
3、商品化農業の展開	二七七

一、浄瑠璃・歌舞伎	二〇三
二、万 才	二〇四
三、獅子・舞いねり	二〇六
四、盆 おどり	二〇七
五、子どもの遊び	二〇九

第一〇章 民間信仰

一、信 仰 形 態	二二二
1、共通性を有する信仰	二二三
2、部落独特の信仰	二二〇
二、その他の信仰	二二四
三、信仰の移り変わり	二二五

第十一章 神社・仏閣

一、神 社	二二六
二、仏 閣	二三一

第十二章 文化 財

一、文 化 財	二三四
1、古 岩 屋	二三四
2、伊予すだれ自生地	二三五
3、仰 西 渠	二三六
4、三島神社拝殿	二三六
5、三十三燈台	二三六
6、八幡神社本殿一棟同拝殿一棟	二三七
7、杏 生 山	二三七
8、三十番神	二三八

四、農業生産物流通	二七九
1、米	二七九
2、蚕	二八五
3、三	二八七
4、木	二八八
5、炭	二八八
五、農地改革	二八九
1、久万町における農地制度の概略	二八九
2、農地改革の発足	二九〇
3、農地委員会の誕生	二九一
4、農地改革の展開と実績	二九二
5、農業委員会	二九三
六、開拓史	二九八
1、失業対策として始まった開拓	二九八
2、地域開拓計画	二九九
3、開拓官農のうつり変わり	三〇一
4、開拓今後のあり方	三〇一
七、農業災害	三〇二
1、農作物災害	三〇二
2、戦後農業政策の転換	三〇三
3、新農山漁村総合対策事業	三〇三
4、農業構造改善事業	三〇五
5、久万町農業の実態と展望	三〇六
6、海外移住	三〇九
第三章 農業協同組合	三二四
一、沿革	三二四
1、産業組合時代	三二五

二、農業会時代	三二六
1、農業協同組合時代	三二六
2、町内農業協同組合の合併	三二七
3、財務のすう勢	三二九
4、組合長・理事名簿	三二九
第四章 畜産	三三一
一、牛	三三一
1、和牛(黒色和種)	三三一
2、乳牛	三三四
3、アベ牛(褐色和種)	三三四
二、馬	三三五
1、駄馬	三三五
2、競走馬	三三九
三、野尻馬	三三九
四、小家畜	三四一
五、年次別家畜頭羽数	三四三
六、肉用牛の繁殖育成センター	三四六
第五章 林業	三四八
一、久万林業の概要	三四八
1、地域の環境	三四八
2、林業の沿革	三四九
3、山林所有の概況	三四九
4、造林概況	三四九
5、久万材の流通	三五〇
6、特殊林産物	三五〇

七、久万町材の材質	三五二
二、森林面積と蓄積	三五二
1、森林と土地利用の状況	三五二
2、林地蓄積と収穫表	三五四
三、林地の利用と所有形態の推移	三五五
1、概要	三五五
2、経営面積の状況	三五七
3、所有者別面積	三五八
4、町内・町外所有者の状況とその推移	三五八
四、造林	三五九
1、植林の歴史	三五九
2、造林地地帯	三六〇
3、種子・育苗	三六一
4、植栽	三六一
5、保育	三六二
6、補助造林	三六三
7、融資造林	三六三
五、生産と流通	三六四
1、生産状況	三六四
2、集材と運材	三六五
3、集材処分	三六八
4、しいたけ	三六九
5、木炭	三六九
6、その他産物	三六九
7、磨き丸太	三六九
六、林業経営	三六九
1、公有林	三六九

二、民有林	三八〇
第六章 森林組合	三八六
一、森林組合のおいたち	三八六
1、久万町森林組合	三八六
2、明神村森林組合	三八七
3、川瀬村森林組合	三八八
4、父二峰村森林組合	三八九
二、森林組合の現況	三九〇
1、組合合併の歩み	三九〇
2、林業構造改善事業の概況	三九一
三、森林組合の事業諸統計	三九三
1、林道	三九三
2、造林	三九五
3、金融	三九五
4、木炭・椎茸	三九六
第七章 商工業	三九七
一、商工業の概況	三九七
1、商工会のあゆみ	三九九
2、久万実業懇談会	三九九
3、久万実業倶楽部	四〇三
4、久万商工会	四〇三
5、久万町商工会	四〇五
6、久万町商工業協同組合	四〇八
二、その他商工諸団体	四〇九

1、信栄会	四〇九
2、友の会	四〇九
3、社団法人愛媛県建設業協会上浮穴支部	四一〇
4、その他	四一一
四、金融	四一一
1、法定金融	四一一
2、質屋	四一三
3、高利貸し	四一三

第八章 交通運輸(通信運輸)

一、道路交通運輸の概況	四一四
二、道路の変遷	四一四
三、交通運輸事業の移り変わり	四一七
四、郵便通信事業の歴史と現状	四二〇
1、久万郵便局	四二〇
2、父二峰郵便局	四二一
3、川瀬郵便局	四二一
4、直瀬郵便局	四二二
5、久万電報電話局	四二二

第九章 観光

一、概況	四二三
二、名勝	四二四
1、三坂峠	四二四
2、皿が峰	四二五
3、笛が滝公園	四二五
4、古岩屋・嵯峨山冷泉	四二五

5、その他	四二六
三、名産物・土産品	四二六
四、観光の将来と問題点	四二七
第五編 政治	

第一章 行政区画の変遷

一、明治以前	四三一
二、明治以後	四三三
三、役所の移り変わり	四四九
1、久万町役場	四四九
2、愛媛県久万庁舎	四五二

第二章 町政の動き

一、維新当初	四五四
二、区長・戸長・村長	四五五
三、選挙	四五八
1、国会	四五八
2、国会	四五九
3、区会	四六二
4、町村会	四六二

四、合併後の町政

1、概要	四六五
2、町財政	四六九

第三章 治安と消防

一、藩政時代の治安	四七四
-----------	-----

第四章 保険・衛生

一、診療制度	四九一
1、公立診療所	四九一
2、民間診療施設	四九七
二、伝染病舎	五〇〇
1、避病舎	五〇〇
2、統合伝染病棟の火災・新築	五〇二
三、国民健康保険	五〇二
四、簡易水道事業	五〇六
1、久万町簡易水道	五〇六
2、地域簡易水道	五〇九
五、疾病及び伝染病	五〇九
1、概要	五〇九
2、伝染病	五一二
3、疾病	五一二

第五章 福利・厚生

一、国民年金制度	五一四
----------	-----

第六編 教育

第一章 学校教育

一、寺小屋教育	五三五
二、明治以後の学校教育	五三五
1、明神地区	五三七
2、久万地区	五三九
3、畑野川地区	五四三
4、直瀬地区	五四四
5、父二峰地区	五四六
6、実業補習学校	五四九

第七編 人物

一、斉秀和尚……………六一五
 二、山之内仰西……………六一九
 三、江西蔵山……………六二四
 四、高野幸治……………六二七
 五、梅木源平……………六二八
 六、井部栄範……………六三〇
 七、檢垣伸……………六三三
 八、船田一雄……………六三六
 九、宇都宮音吉……………六四〇

久万町の将来……………六四七
 町村長時代の思い出……………六五五
 町村長・助役・収入役・議会議員名簿……………六七三
 新久万町議会議長・副議長常任委員名簿……………七〇七
 久万町役場機構図及び吏員名簿……………七一五
 戦没者名簿……………七二三
 久万町史年表……………七三七
 あとがき……………七五四
 久万町誌編集委員名簿……………七五六
 参考図書一覧表……………七五七
 特別協力者名表……………七五八
 年表……………七五九

7、青年訓練所……………五五二
 8、青年学校……………五五三
 9、上浮穴高等学校……………五五四
 10、上浮穴郡尋常小学校准教員養成所……………五五八
 11、育英事業……………五五九
 三、戦後の学校教育……………五六二
 1、新制中学校……………五六五
 2、学校教育の充実……………五六九
 第二章 社会教育……………五七九
 一、戦前の社会教育……………五七九
 二、戦時下の青年団・国防婦人会……………五八〇
 1、青年団……………五八〇
 2、国防婦人会……………五八一
 三、戦後の社会教育……………五八二
 1、公民館の建設……………五八二
 2、合併後の社会教育……………五八八
 3、幼児教育……………五九五
 4、社会教育団体……………五九八
 第三章 教育委員会……………六〇四
 一、地方教育行政制度の変遷……………六〇四
 二、教育委員会の発足……………六〇五
 三、公選制から任命制へ……………六〇六
 四、久万町合併後の教育委員会……………六〇九

第一編 自

然